

『基礎から学ぶ商法』

(YH・法科大学院生)

商法の入門書を探していたところ、1冊で「会社法から手形法の基礎まで学べる」という本書に魅かれました。

法科大学院の後期の授業に向けた予習のつもりで本書を利用しました。入門書といえども、初めのうちは分からないことばかりで大変でした。それでも、参照箇所が丁寧に書いてあるので、分からない単語・内容に遭っても、前のページに戻ったり、先のページに進んだりを繰り返すことで無事に読み進めることができました。そうこうしているうちに、最初の頃感じていた抵抗はなくなっていました。

コラムにも参照箇所が書かれているので、商法を全く勉強したことのない方は、まずはコラムから読み始めて、徐々に本章の方を読んでいくのもよいかもしれません。私は、参照先でも分からないことが出てきたら、さらにその参照先を読むという芋づる式の読み方をしました。そうしていたら、本書のほとんどを読み終えていたので、分量として最適でした。また、具体的なケースを基軸にして説明が展開されているので、ある概念・制度を具体的なイメージと結び付けて理解できたことも本書のよかったところだと思います。基本書に取り組む前のよいウォームアップになったと思います。